

Off-campus Study Program参加学生 健康状況および学習面における支援自己申告書

氏名		学籍番号	
プログラム名/ 派遣大学		派遣国・地域	

実りあるExplore Programにするために

みなさんがExplore Program参加期間中に、学習や活動に集中して取り組むためには、プログラムの開始までに体調や学習面における支援体制を万全に整えておくことが大切です。もし、不安があれば、プログラムの開始までにそれらを解消したり、軽減しておくことが望まれます。このため、立命館アジア太平洋大学では、みなさんが参加にあたって体調や健康の状態、または学習面において不安に思っていることなどを、あらかじめ申告頂くことで、より適切な支援を検討したいと考えています。また、プログラム中の万が一の事態の発生時に備えて、大学は派遣学生の健康状態を知っておく必要があります。つきましては、本申告書への正確な記入にご協力ください。

1. あなたの健康状況および学習面における支援について、以下のいずれかの口にチェックをしてください。

プログラム参加にあたり、体調や健康状態、学習面について記入してください。不安に思っていることや相談したいこと、現在診断を受けて治療している、また、経過観察をしている疾患も含まれます。

体調面や健康上または学習面における不安は、

- 特にない。 * 「特にない」にチェックした場合でも、プログラム派遣前・派遣中に健康上の不安や問題が生じた場合や、派遣/派遣継続にあたり医療機関/専門家の判断が必要と大学が判断した場合は、医療機関への相談・通院や診断書等、医療機関より発行された書類の提出を求められることがあります。
- ある。 * 特徴的な症状や留学にあたっての相談事項などを以下の記述欄に記入してください。
* 「記述欄」への記入を希望せず、相談による申告を希望する場合、「口ある」にチェックの上、「記述欄」には「後日、オフィスにて相談希望」と記入してください。

No.	病名/症状	発症した年齢/発症頻度	症状が起こりやすい状況	対処法
例1	過敏性胃腸炎による胃痛	15歳 / 月2回程度	体調が悪いとき	処方薬を飲む
例2	犬アレルギーによる発作(呼吸困難)	3歳 / 1年に1回程度	犬と同じ空間にいる場合は大丈夫だが、触ると起こる	近づかない、発症した場合はアドレナリン自己注射薬が必要
例3	大人数の中で不安が強くなる	16~17歳 / 1年に1、2回程度	試験前など心身の疲労が溜まっている時に起こりやすい	- 人のいない静かな場所へ移動して呼吸を整える。 - 心療内科でカウンセリングしてもらう。
例4	下肢(足)に障がいがある	0歳 / 常時	-	車椅子の使用
1				
2				
3				
4				

注意事項

- 現在治療中の学生は、プログラム中の活動に耐えうるか否か、必ず主治医の判断を仰いで下さい。また体調に不安がある学生についても、事前に主治医へ相談して下さい。なお海外プログラムに参加をする学生は、上記に加え、万が一の場合に備え医師に英文のレター(現在の症状の説明、処方されている薬の情報等)を書いてもらってください。また別紙のチェックリストに沿って、渡航に向けての準備を行って下さい。
- 本申告書に記入される個人情報は、あなたがプログラムに参加する上でより適切な支援を検討するために、必要に応じて派遣先大学・機関、旅行代理店、保険会社、危機管理サポート会社、宿泊施設、日本およびあなたの母国、ならびに派遣先国の大使館、領事館、外務省と共有される場合があります。

2. 署名

以上、事実と相違ないことを申告します。また、上記注意事項にも同意しました。

署名

署名日